

喜多流能楽公演

能半部立花

友枝 昭世(人間国宝)

狂言 鐘の音

野村 万作(人間国宝)

能熊坂 佐々木多門



平成30年

11月17日(土)

開演 午後1時30分(開場 12時50分)

盛岡市民文化ホール(大ホール)

入場料 [全席指定] SS席 9,000円 S席 7,000円 A席 5,000円 B席 2,000円(当日各席 1,000円増)

※平成30年7月28日(土)発売

◆主催 岩手県文化振興事業団/盛岡市文化振興事業団/岩手朝日テレビ/岩手県能楽連合会

◆共催 盛岡市

◆後援 岩手県/岩手県教育委員会/岩手県芸術文化協会/岩手日報社/岩手華道協会

◆協賛 中尊寺

【プレイガイド】 〈盛岡〉県民会館/盛岡市民文化ホール/アネックスカワトク/カワトク/フェザン/プラザおでって 〈花巻〉なはんプラザ
〈北上〉さくらホール/江釣子ショッピングセンター・パル 〈奥州〉奥州市文化会館2ホール 〈遠野〉とびあ 〈二戸〉ニコア 〈大船渡〉サン・リア 〈釜石〉釜石市民ホール
〈久慈〉アンバーホール 〈いわて生協〉県内各店 〈ゲッティ・カンフェティ〉パソコン・スマートフォン・携帯電話で予約、セブン・イレブンで支払・発券ができます。

お問い合わせ 岩手県民会館事業課 TEL.019-624-1173 / 盛岡市民文化ホール TEL.019-621-5100



喜多流能楽公演

開演 (一三・三〇)

仕舞 難波 佐々木宗生

金子敬一郎
狩野 了一
長島 茂
友枝 雄人

後シテ・夕顔ノ上ノ靈
前シテ・里ノ女
友枝 昭世

能 半 蔀 立花 福王 和幸

大鼓 國川 純
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 松田 弘之

アイ・五条辺ノ者 深田 博治

後見 中村 邦生
友枝 雄人

地謡 谷 友矩 内田 成信
塩津 圭介 粟谷 明生
友枝 真也 栗谷 能夫
佐藤 寛泰 狩野 了一

和泉流 狂言 鐘の音 野村 万作

アド・主 深田 博治

(二五・二〇)

休憩 一五分

能 熊 坂 福王 和幸

後シテ・熊坂ノ靈
前シテ・僧
佐々木多門

アイ・赤坂ノ里人 飯田 豪

後見 塩津 哲生
中村 邦生

大鼓 國川 純 太鼓 徳田 宗久
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 松田 弘之

地謡 谷 友矩 内田 成信
塩津 圭介 長島 茂
友枝 真也 出雲 康雅
佐藤 寛泰 金子敬一郎

附祝言

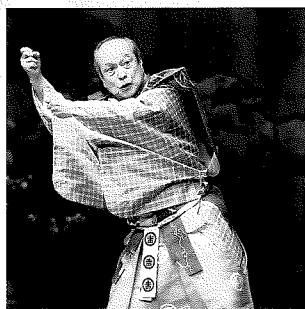
終演予定一七・二〇頃



能「半蔀 立花」(はしとみりつたか)

紫野の雲林院にて、一夏のあいだ仏に花を立てて供養をしている僧のところへ、夕顔の花を供えに美しい女がやってくる。僧が名を問うと、五条あたりに住む者とばかり告げて夢のように消え失せてしまう。光源氏と夕顔との物語を地謡の者に聞いた僧が五条へ赴くと、夕顔の花が可憐に咲いている家が見えてくる。する舞を舞う。やがて夜も明け方になり、女が再び半蔀に入ると見えて、僧の夢は覚めるのであった。

源氏物語の詩情を絵巻物のごとくに漂わす一曲。「立花」の演出では、舞台上に立花が置かれ、静謐な供養の場面と儂い夕顔の花の印象を効果的に深めます。立花は草月会岩手県支部長・齋藤幸絹氏が立てられます。



狂言「鐘の音」(かねのね)

主人は息子の元服に、黄金作りの太刀を差させてやろうと考え、金の値段を聞きに太郎冠者を鎌倉へ遣わす。ところが、「金の値」を、寺の鐘の音と思い込んだ太郎冠者寺々を回って帰宅すると、主人の前で鐘の音を説明するのだが……。

寿福寺・円覚寺・極楽寺・建長寺の寺々の鐘の音を擬音で説明したり、主人の怒りを解くため、鐘の音の子細を謡い舞うのが見どころの狂言です。演者自身の声で鐘の音を表現する、狂言独自の趣向をお楽しみください。



能「熊坂」(くまざか)

美濃国の青野ヶ原を訪れた旅僧の前に、さる者の回向を頼みたい……と僧が呼び止めてくる。旅僧が庵室の持仏堂に誘われて入ると、壁面に大雑刀などの武器が立て並べてある。不審なことと思ひ尋ねると「この辺りは盗賊が多く出没して人々を苦しめるので、愚僧が防ぎ闘うのです。」と僧は身の上を語る。やがて夜も明け方となり、

微睡しようとするうちに、僧も庵も消えて草むらとなっていた。(中入)
所の者にこの地で牛若丸に斬られて命を落とした大盗賊・熊坂長範(ちようはん)の話聞いた旅僧が甲いをしていると、熊坂の霊が現れて、金売吉次の宿を襲って逆に牛若に切り散らされてしまった有様を、仕方話で語り見せる。
荒涼とした草原で異様な僧と出会う前半と、薙刀を使って激しく動き舞う後半との対比が鮮やかな舞台。